

定期作況報告

平成23年7月
(7月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

6月下旬：最高気温および最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より多かった（平年比155%）。日照時間は平年並であった（平年比91%）。

7月上旬：最高気温、最低気温、平均気温は、ともに平年より極めて高かった。降水量は平年並であった（平年比92%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比125%）。

7月中旬：最高気温は平年並で、最低気温は平年よりやや高く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より極めて多かった（平年比230%）。日照時間は平年並であった（平年比110%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は平年と比較して、気温がやや高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

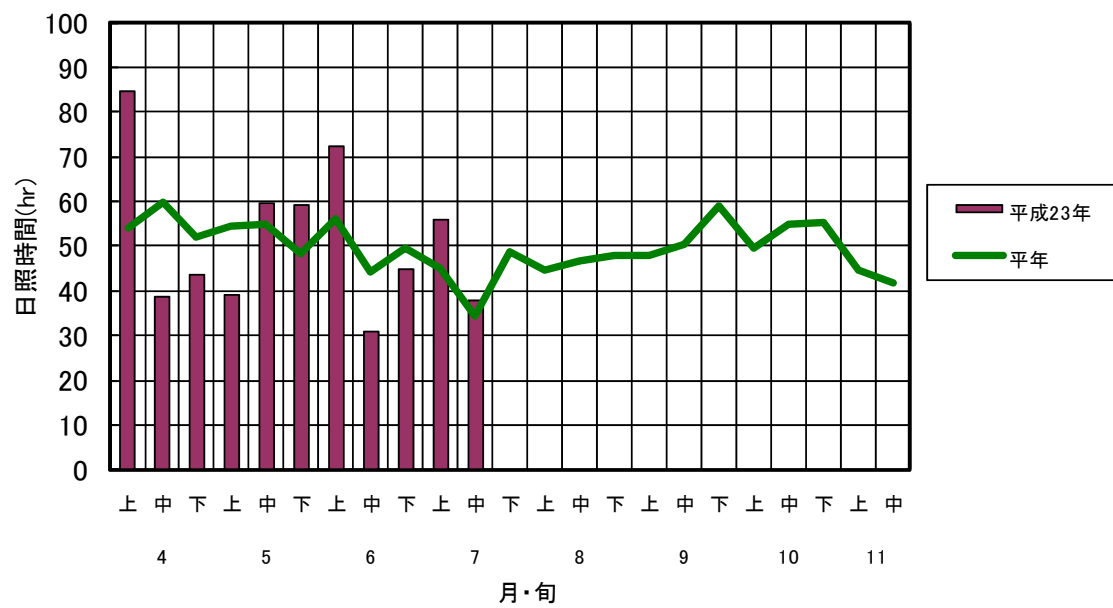
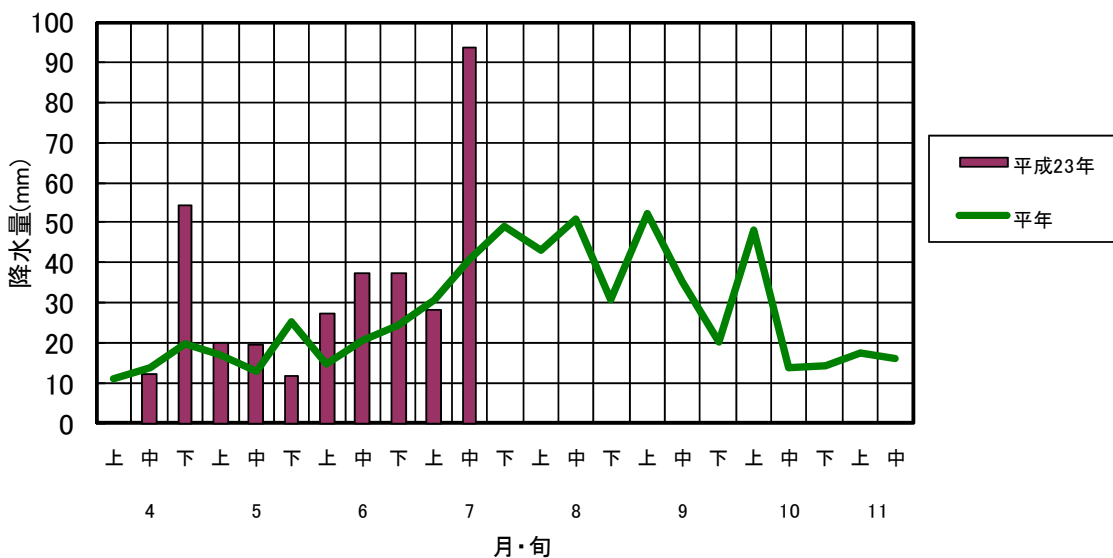
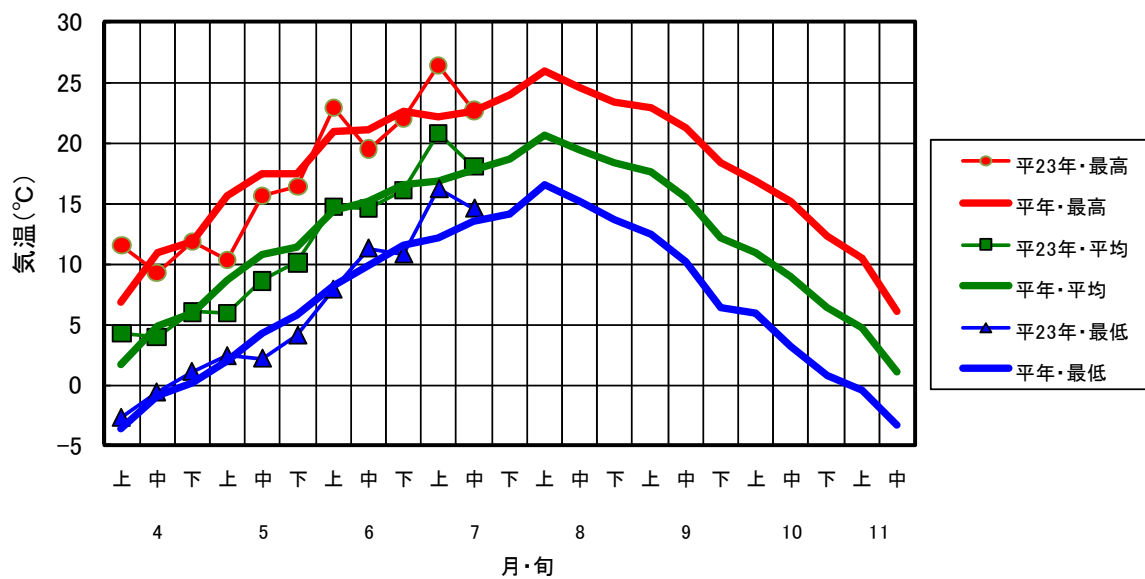
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	16.1	16.6	△ 0.5	22.0	22.6	△ 0.6	10.8	11.6	△ 0.8
7月上旬	20.8	16.9	3.9	26.4	22.2	4.2	16.2	12.2	4.0
7月中旬	18.1	17.7	0.4	22.7	22.6	0.1	14.6	13.5	1.1

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	37.5	24.2	13.3	45.0	49.6	△ 4.6
7月上旬	28.5	30.9	△ 2.4	56.1	45.0	11.1
7月中旬	93.5	40.7	52.8	38.0	34.5	3.5

注 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：やや良

事由：6月下旬以降の気温が平年並～高く推移したことから登熟は概ね順調に進み、倒伏は軽微である。「ホクシン」の稈長・穂長は平年よりやや長く、穂数は多い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ホクシン			きたほなみ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
稈長(cm) (成熟期)	90	85	5	88	85	3
穂長(cm) (成熟期)	9.2	8.3	0.9	9.1	8.5	0.6
穂数(本/m ²) (成熟期)	863	709	154	916	738	178

注) 「ホクシン」の平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均。
「きたほなみ(参考)」の平年値は前6か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：平年並

事由：出穂期は平年より3日遅かった。6月下旬以降の気温は平年よりやや高く推移し、稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並、穂数は平年よりやや多かった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			ハルユカタ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月.日)	6.27	6.24	3	6.27	6.24	3
稈長(cm) (7月20日)	96	89	7	86	83	3
穂長(cm) (7月20日)	7.8	8.2	△0.4	7.8	8.1	△0.3
穂数(本/m ²) (7月20日)	634	555	79	606	543	63

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用) 作 況 : 平年並

事 由 : 6月下旬以降の気温が平年より高く推移したことから、草丈は平年より約17cm高く、葉数は平年並で、生育は順調である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	183.1	166.0	17.1
葉数(枚) (7月20日)	12.7	12.2	0.5

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆 作 況 : 平年並

事 由 : 7月上旬の平均気温は平年より高かったが、6月下旬、7月中旬の平均気温は平年並であり、生育への影響は小さかった。開花始は平年並、分枝数は平年よりやや多いが、主茎長及び本葉数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.18	7.19	△1
主茎長(cm) (7月20日)	50.2	48.1	2.1
本葉数(枚) (7月20日)	6.9	6.8	0.1
分枝数(本/株) (7月20日)	4.0	3.3	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

5) 小豆 作況：平年並

事由：7月上旬の平均気温は平年より高かったが、6月下旬、7月中旬の平均気温は平年並であり、生育への影響は小さかった。「サホロシヨウズ」は主茎長が平年よりやや長いが、本葉数及び分枝数は平年並であり、「エリモシヨウズ」では分枝数が平年より少ないが、主茎長と本葉数は平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	-	7.24	-	-	7.26	-
主茎長(cm) (7月20日)	21.3	17.9	3.4	19.6	17.5	2.1
本葉数(枚) (7月20日)	5.6	6.1	△0.5	5.8	6.1	△0.3
分枝数(本/株) (7月20日)	1.9	2.2	△0.3	1.2	2.1	△0.9

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 菜豆 作況：平年並

事由：7月上旬の平均気温は平年より高かったが、6月下旬、7月中旬の平均気温は平年並であり、生育への影響は小さかった。開花始は平年並、草丈は平年よりやや高いが、本葉数は平年並、分枝数は平年よりやや少ない。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.8	7.7	1
草丈(cm) (7月20日)	46.1	37.9	8.2
本葉数(枚) (7月20日)	3.3	3.3	0.0
分枝数(本/株) (7月20日)	3.6	4.2	△0.6

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、22年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：6月下旬の気温が平年並に推移したため、開花期は植え付けおよび萌芽期の遅れを反映して「男爵薯」、「コナフブキ」とも4日遅かった。6月下旬以降の多雨により土壌が常に湿潤状態だったことと、高温気味に経過したことにより、茎長は両品種とも平年を上回ったが、地上部はやや開帳し徒長気味で旺盛な生育とは言えない。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月・日)	7.4	6.30	4	7.5	7.1	4
茎長(cm) (7月20日)	58	49	9	81	69	12
茎数(本/株) (7月20日)	3.4	3.5	△ 0.1	3.1	3.1	0.0

注) 平年値は前7か年中、平成16(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：やや不良

事 由：7月上旬の気温がかなり高かったことから、草丈は急速に伸長し、地上部の生育は遅れを取り戻した。しかし、7月中旬の多雨のため根部の肥大は停滞し、根重および根周は、移植栽培、直播栽培とも、平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	58.8	57.4	1.4	55.6	53.6	2.0	53.4	50.6	2.8
生葉数(枚) (7月20日)	21.9	21.6	0.3	21.0	20.8	0.2	18.6	19.3	△0.7
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	726	719	7	676	688	△ 12	505	501	4
根重 (g/個体) (7月20日)	244	281	△ 37	278	287	△ 9	99	128	△ 29
根周(cm) (7月20日)	21.1	21.9	△0.8	22.9	23.1	△0.2	16.4	17.2	△0.8

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況:良

事由:1番草の収穫は平年より2日遅い6月23日に行った。1番草の草丈は平年より高く、6月上~中旬の降水量が多かったことから、乾物率は低かったものの、生草収量は平年を上回り、乾物収量は平年対比113%と多収であった。なお、降雨により収穫直前に倒伏が発生し、1番草刈取時の倒伏程度は平年より高かった。

1番草刈取後の生育は、1番草で倒伏が発生したものの欠株はなく、再生時の草丈は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ノサップ			
	本年	平年	比較	
被度(%) 2番草再生時(7/18)	100	100	0	
刈取日 (月.日)	6.23	6.21	2	
出穂程度 1番草	8.0	5.4	2.6	
倒伏程度 1番草	7.8	1.5	6.3	
病害罹病程度 1番草	2.0	1.9	0.1	
草丈(cm)	1番草	115	104	11
	2番草再生時(7/17)	40	37	3
生草収量(kg/10a) 1番草	3986	2677	1309	
乾物率(%) 1番草	17.5	23.3	△ 5.8	
乾物収量(kg/10a) 1番草	696	615	81	
同上平年比(%) 1番草	113	100	13	

注) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

出穂程度は、1:極少~9:極多。

倒伏程度は、1:無または微~9:甚。

病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ 作 況：平年並

事 由：平年と比較して、6月下旬以降の気温はやや高く推移し、降水量も多かったことから生育は順調であった。球肥大期は、「改良オホーツク1号」で平年より2日遅い7月10日、「スーパー北もみじ」で平年より3日早い7月19日であった。「改良オホーツク1号」では、葉鞘径、葉身生重、球生重が平年を上回っており、「スーパー北もみじ」では、生葉数、葉身生重、球生重が平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.10	7.8	2	7.19	7.22	△3
草丈(cm) (7月20日)	80.6	75.1	5.5	78.7	80.0	△1.3
生葉数(枚) (7月20日)	9.2	9.2	0	9.5	10.4	△0.9
葉鞘径(mm) (7月20日)	22.4	19.7	2.7	19.8	21.4	△1.6
葉身生重(g) (7月20日)	153.8	115.2	38.6	115.8	129.5	△13.7
球生重(g) (7月20日)	122.5	98.2	24.3	46.2	50.0	△3.8

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。